



新病院長の紹介

上天草総合病院



病院事業管理者
蓮尾 友伸

へき地拠点病院と「割れ窓理論」

天草の海に浮かぶ上島の南岸で、上天草市の南端に位置する当院は、温暖で風光明媚な環境とともに、釣り愛好家にとりましては絶好のポイントとの高評価を受けています。加えてイノシシやタヌキやそれらが媒介するマダニにも好環境の生息地として人気（虫気？）を博し、全国有数の日本紅斑熱発症の地としても有名です。平成十六年に龍ヶ岳、姫戸松島、大矢野四町が合併して誕生した上天草市の約三万の人口も毎年五〇〇〇九〇〇人ずつ減少し、現在では二万七〇〇〇余人になつてしまいました。私は六年前、好んで二度目のこの地に就職したのですが、以前にはあった飲み屋も寿司屋もカラオケ屋もパチンコ屋も全てなくなつていました。

師に痛い目に遭わされた経験がありましたので（どうやら他の自治体病院長も少なからず同様の経験をなさっているようですが…）慎重に人選し、この四月より、循環器科、小児科、外科の三名の優秀な医師をお迎えすることができました。しかしながら一息つく暇もなく新たに、あと二年のうちに薬剤師三名すべてが定年や家庭の事情で退職することが判明しました。再び、薬剤師確保に奔走する羽目になりましたが、この夏までには何とか二名の薬剤師を確保できる見込みです。

などなど上天草市における人口減、飲み屋減、アメニティ減、若者減、高齢者増、イノシシ増の自然の摂理に抗い、人材を集めることが如何に困難なことかを身をもつて知ることになりました。今後も看護師、看護助手、調理師、介護士と際限なく続くのでしょうか。

都会では「働き方改革」、「ライフワークバランス」、「時間外労働シリング」、「同労働同賃金」などが金科玉条のごとく喧伝されていますが、いづれもへき地医療の実態とは相容れません。単身赴任を求められ、アメニティもない当地に勤務することになった医師または薬剤師は、よほど人込みが嫌い、釣りが飯よりも好き、イノシシやタヌキと会話ができる、などの特別な理由がない限り、後日「無責任な新事業管理者に騙された」と愚痴をこぼすことになるのでしょうか。幸い件の三名の医師はいずれも五十五歳以上であり、「医療は医師の自己犠牲の上に成り立っている、または、ハズである」とインプットされた世代なので心配はしていませんが。

荒尾市民病院



院長
勝守 高士

平成二十九年四月一日付けで荒尾市民病院の第七代院長を拝命致しました。勝守高士と申します。現在、大嶋壽海病院事業管理者とともに地域医療の発展に全力を傾けております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

勝美先生、大嶋壽海先生と続いた各院長の後を引き継いで、私で第七代最古の中央病棟は今年で築五十年になります。病院新築は職員一同の悲願でしたが、八年連続で黒字決済となったことを受け新病院建設が実現の運びとなり、昨年九月に現地建て替えが決定致しました。現在、今後の高齢化社会に対応した、患者および職員が利用しやすい機能的な病院建設に向かい、着実に計画が進行しております。

私は昭和五十二年に熊本高校、昭和五十九年に熊本大学医学部を卒業後、熊本大学第二外科（赤木正信教授）に入局し、二年目の研修医として昭和六十年に荒尾市民病院に赴任致しました。外科部長の山崎勝美先生に外科医の考え方から緩和医療まで厳しくご指導頂き、外科医としての基礎をたたき込まれた思い出の地であります。その後熊本大学大学院に入り、守且孝先生・山口康雄先生にご指導頂き、DSTによるラット同所性肝移植における細胞障害活性の検討の研究を行いました。大学院修了後、平成三年から五年間国立都城病院で奥村恭久先生に外科臨床を教えて頂き、平成八年に再び荒尾市民病院に赴任し現在に至ります。荒尾市民病院は昭和十六年陸軍の診療所として創設され、昭和二十年十二月から荒尾・大牟田両市共立病院として運営され、昭和二十四年四月より荒尾市立病院と機構を改め、昭和三十四年に荒尾市民病院と改称し現在に至っております。初代院長松浦秀明先生から、岡留芳文先生、宮川三男先生、財津史朗先生、山崎

荒尾市はこれまで熊本県の「知の拠点」である熊本大学と様々な施策について連携を進めて参りましたが、平成二十八年度からは認知症のメカニズムや生活習慣病との関係、予防法の解明を目指して大規模認知症コホート調査を行っております。平成二十九年九月には「荒尾市と国立大学法人熊本大学との包括的連携に関する協定書」を締結し、今後さらに熊本大学との連携を深め、地域課題の解決に向けて積極的に取り組む予定です。荒尾市民病院は、現在、地域がん診療連携拠点病院・急性期脳卒中拠点病院・心筋梗塞急性期拠点病院の指定を受け、高性能の機器を多数導入し、三六五日二十四時間体制で急性期病院の職責を全う致しております。今後少子高齢化の中で、新病院を建設し熊本大学や近隣基幹病院との医療連携を充実させ、荒尾市唯一の急性期病院として医師会・歯科医師会・薬剤師会との連携をさらに強化し地域住民の健康を支えて参る所存であります。

肥後医育振興会の皆様には、これまでと同様に温かいご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。